

平成29年度 札幌市立大学大学院 連携プロジェクト演習 公開成果発表会プログラム

平成29年12月9日（土）15：00～16：30
 桑園キャンパス大学院棟4階 中講義室

1 開会にあたって（15:00～15:05）デザイン研究科長 城間祥之

2 グループの発表

1 グループにつき、プレゼン20分+質疑応答10分=30分間

| 予定時刻 | テーマ/発表概要 | | グループ構成員 |
|---------------------|----------|---|---|
| 15:10 ～ 15:40 | 【テーマ】 | 社会活動の参加が高齢者に与える影響-ケアハウス入居者の場合- | 看護学研究科博士前期課程1年 岡本恭子 |
| | 【発表概要】 | ケアハウスに入居している高齢者は、入居により様々な喪失を体験する。そのため、高齢者が自己肯定できる場が必要と考えた。そこで、入居前に行っていた日常の作業を子供との交流を設けた社会活動として提供するために、多世代遊具・ピザ釜を製作し、食事会を開催した。このことが、ケアハウスの入居者の自己肯定にどのような影響を及ぼしたかについて報告する。 | デザイン研究科博士前期課程1年 河口紘亮、萩原亜津子、宮崎智仁、 佐竹都築 |
| | | | 指導教員 宮崎みち子教授、片山めぐみ講師 |
| 15:45 ～ 16:15 | 【テーマ】 | 高齢者のロコモティブシンドローム予防を目的としたトレーニングゲームの開発 | 看護学研究科博士前期課程1年 乾結、大久保未央 |
| | 【発表概要】 | 本研究の目的は高齢者のロコモティブシンドロームを予防するトレーニングゲームの開発である。一般的な訓練方法では運動習慣がない高齢者が継続的にトレーニングを行うことは困難であると考えられる。そのため楽しみながら運動できることに焦点を当て、下肢の動作計測装置を活用したゲームを試作した。高齢者を対象とした健康イベントにおいてゲーム体験会を実施し、アンケート調査を行ったところ、高齢者にとって親しみやすく楽しく運動できるゲームであることが示唆された。 | デザイン研究科博士前期課程1年 倉持歩、昆野照美、三上拓哉、姚李蒞 |
| | | | 指導教員 藤井瑞恵准教授、松永康祐講師 |

3 講評（16:15～16:25）学長 蓮見 孝

4 閉会にあたって（16:25～16:30）看護学研究科長 松浦 和代